

## 7 特別活動における実践（活動研究部）

「豊かな感性を育くみ、ともによりよく生きる児童生徒の育成～内省と実践をつなぐ道徳授業と評価を通して」の研究主題を受け、活動研究部では、各校において児童生徒の活動の見直しから研究に着手した。各校の学校行事を並べ比較すると、時期は異なるものの、目的を同じくした行事が複数存在することから、それら「学校行事」に含まれる道徳性を養う機会について改めて吟味することにした。

学習指導要領解説の特別活動編にある「特別活動の目標」には、「よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」とある。研究主題を受けて、活動研究部の取り組むべき方向性を考える中で、「特別活動の目標」と「道徳教育がめざすもの」には、多くの共通点があることが見えてきた。そこで、これまで我々が取り組んできた活動の中で、養うべき道徳性を明らかにしていくことを、研究の中心ととらえて取り組んでいくこととした。

### (1) 実践

#### ア 3校共通5行事と道徳的価値との関連性

各校の行事を比較すると、実施時期は異なるが、内容や目的が同じ学校行事が挙げられた。精選して5つを「共通行事」とすることにした。

- ①新入生歓迎行事（1年生を迎える会・新入生歓迎会）
- ②体育的行事（運動会・かしわ祭体育の部）
- ③宿泊体験行事（修学旅行・自然教室・宿泊体験教室）
- ④学芸的行事（市内合唱発表会・かしわ祭文化の部）
- ⑤卒業生関連行事（6年生を送る会・感謝会）

#### <①新入生歓迎行事（1年生を迎える会・新入生歓迎会）>

※重点指導項目「親切、思いやり」



喜んでもらえると、  
うれしいなあ！



優しくしてくれてありがとう！  
学校に来るのが楽しくなっ  
たよ！

1年生の不安をなくして、早く  
なれてもらいたいな。

<③ 宿泊体験行事（修学旅行・自然教室・宿泊体験教室）>

※重点内容項目「自主、自律、自由と責任」



自分たちが寝るところだから自分たちで用意しなくちゃね！みんなで協力したら、どんどんできるね！



休みたいなあ……。でも自分の係だからがんばるぞ！



大変な仕事だけれど、私の仕事だから最後までしっかりやろう！がんばるぞ！

<⑤ 卒業生関連行事（6年生を送る会・感謝会）>

※重点内容項目「思いやり、感謝」



3年生の先輩方に感謝の気持ちを伝えるには……



先輩方が作り上げてきた学校を、しっかり受け継いでいく気持ちを、この合唱に込めるぞ！



全力で伝えるこのエールに、これまでの感謝の気持ちをすべてのせて……卒業生はどんな気持ちで聞いてくれるかな？

これらの行事は、校内の指導部から行事提案されることから、各校指導部会において「行事の中でねらう道徳的価値」について検討をし、職員会議等の提案では、それらを明記し職員に意識啓発するようにした。また、行事の振り返りにおいても「道徳的価値を意識して取り組んだ結果、児童生徒の表れはどうであったか」を振り返る項目を設定し、職員が記入するようにした。

#### イ あいさつ運動

各校において、児童会（生徒会）を中心に、「あいさつ運動」に取り組んだ。取組の発端として「私たちの生活を見直して、改善すべき課題は何か」という趣旨の話し合い活動を通じて、3校それぞれで校内あいさつ運動を展開した。他者と関わるための第1歩である「あいさつ」をさわやかに交わすことで、親しい仲間だけでなく、どんな相手とでもコミュニケーションを図り、他者理解に努める資質を養うことを目指して取り組んだ。相手に能動的に



関わる「あいさつ運動」に取り組む中で、児童生徒は、自分たちが使う言葉に着目し始めた。意思疎通のきっかけ作りとなる「あいさつ運動」は、道徳授業の中で、価値観の異なる仲間への関わり方にも効果があるものにとらえている。相手を尊重する態度を、児童生徒が意識できるようになることをめざし、取り組んでいった。

#### ウ ふわふわハートの木・ありがとうメッセージ



相手に対して「言われてうれしい言葉を使おう」という運動に、児童会主催で取り組んだ。画用紙で作成した木に、花形の紙に書いた「言われてうれしかった言葉」を記入し、貼っていくという活動である。年度後半には、花形の紙を実の形に変えて、「ふわふわハートの花が実になりました。」とし、児童に、日常から穏やかな人間関係作りを奨励する働きかけの一助とした。自分が使う言葉

に対して日頃から意識をしている子どもたちは少なく、こうした取り組みの中で改めて振り返ることで「こんな言葉を使っていたな。」「あんな言葉に励まされたな。」と気づく姿が多く見られた。また、目に見える形で温かな言葉が増

えていくことは、児童一人一人の、これからの生活に対する前向きな姿勢も期待できると考えて、年間を通じて取り組んできた。一方、中学校では、「ありがとうメッセージ」と題して、毎日の帰りの会において「友達にしてもらってうれしかったこと・言われてうれしかったこと」を伝え合う活動に取り組んだ。最初は口頭で伝えるだけだった活動も、次第に紙に記入して掲示する活動へ発展していった。自分の名前が記入されたカードが掲示されると、どの生徒もうれしそうな表情を見せていた。そして現在では、自分自身のことだけでなく「誰かが誰かにこのような温かな接し方をしていた」という、他者の善行にも目を向けられるようになっている。



## (2) 成果と今後の取組

### ア 3校共通5行事

同じ目的で取り組むべき共通行事を設定し、道徳的価値との関連性を見出すことは、教職員の意識啓発に大変役立った。実際には、これまでも同じように取り組んできた行事が、道徳的価値へと見方を焦点化することで、児童生徒への向き合い方にプラスαの意識を生むことになり、「あんなこともできる・こんなこともできそうだ」という、教職員自身の道徳教育に対する意欲向上にもつながった。また、行事の振り返りからは、「子どもたちが、こんな表情をして友達に関わっていました」や「生徒が取り組みの中で見せたあのような姿は、きっと



他者に対する…な気持ちの表れだろう」という言葉が多く得られた。道徳教育を推進していく我々教職員が、児童生徒の表れを前向きにとらえ尊重する姿勢が、児童生徒に安心感を与え、今後も穏やかに他者に関わっていけるだろうという期待につながった。行事を重ねるごとに良いサイクルが生まれてくるのが最大の成果だと考えられる。

### イ あいさつ運動

各校でのあいさつ運動では、日に日に児童生徒の声が大きくなっていくのが

感じられた。こうした取組を始める以前は、教師から声をかけても返事が返ってこない児童生徒が多く見られたのだが、「言葉を交わす＝あいさつ」の繰り返しで、声をかけられて、反応し声をかけ返すことは、当然のことなのだという意識に変わっていったように見えた。あいさつによってコミュニケーションの入り口が開き始めた児童生徒は、道徳授業においても「ただ聞いている」のではなく、仲間（ときには意見の食い違う仲間）に対しても、言葉で能動的に関わろうとするようになり始めた。これは、日頃から学年や学級、子ども・大人の差なく、積極的にコミュニケーションを図っていこうという思いから始めた「あいさつ運動」が、その成果に一役買っていると考えられる。

また、各校で実施されたあいさつ運動は、校内にとどまらず、「学校の外へ出てあいさつを交わそう」という運動に発展していった。大仁中学校では、生徒が自分たちの卒業した小学校（大仁小学校・大仁北小学校）へそれぞれ出かけていき、朝のあいさつ運動を実施した。中学生にとっては懐かしい学舎の前であいさつすることで、多くの



人に関わろうとするコミュニケーション意欲を高めることができた。各小学校では、お世話になった上級生が登り旗を持ちあいさつしてくれるのを、うれし

そうな表情を見せながら児童が登校していた。このことは、校内でのあいさつ運動が、人間関係を広く豊かにしていく取り組みのきっかけ作りとなったことを表しているように思われる。確かな成果として受け止めることで、活動の裾野を広げていくように今後の取り組みを計画していこうと考えている。



#### ウ ふわふわハートの木・ありがとうメッセージ

あいさつで他者に関わるようになった児童生徒は、自分たちの言葉に対しても見直しをするようになった。言葉は、同じ言葉でも使う場面や受け止め方によってうれしくも悲しくもなることを、「ふわふわハートの木・ありがとうメッセージ」への取り組みによって、児童生徒が認識し始めた。生活を振り返り「言われ



てうれしかった言葉」を思い出すことで、自分自身が使うべき言葉を選び、考えるようになったことが、一番の成果だととらえている。また、こうした活動を校内掲示することによって、多くの児童生徒の目に触れることになったことは、個人個人の振り返りにとどまらず、校内あいさつ運動と相まって、「学校中を温かな雰囲気にしていこう」という意識が広がっていったことも、成果と考えられる。

一方、課題として考えられることは、「活動研究部の取組」と「道徳授業における児童生徒のあらわれ」との関係である。授業の中での児童生徒同士の関わりなどにおいて、一定の成果が見られているものの、まだまだ課題は多いと考える。



授業の中で児童生徒が道徳的価値について考え、道徳的な判断力や実践意欲、態度を身に付けていくために、学校行事はどのような下支えができていのかについて、今後、ますます検証していく必要がある。そのためには、これまで取り組んできたこと

を、単年度で終結させるのではなく、継続して取り組んでいくことで、どのような変容が生まれていくのかを見つめていきたい。教育活動すべてにおいて道徳教育を大切にしていける風土を、ますます育てていきたい。また、大仁中学校区では、児童生徒の日常の表れにおいて、学校での姿と家庭での姿に差が見られ、道徳教育においてもそれは例外ではない。校内での「あいさつ運動」や「ふわふわハートの木・ありがとうメッセージ」などの取組について、連携研究部とタイアップし、広く地域や家庭への啓発を続けていきたい。「地域・家庭と学校とが手を携えて児童生徒の道徳性を養う」という基本姿勢を改めて見直していきたい。

